

■令和元年度第2回会津美里町観光まちづくり推進協議会議事録

日 時：令和元年10月31日（木）15:00～16:30

場 所：会津美里町役場本庁舎2階206会議室

出席委員：石原委員、高梨委員、星委員、鈴木^{（きよ子）}委員、鈴木^{（裕）}委員、石田委員、長谷川委員、
柴崎委員、阿部委員、竹内委員（計10名）
（欠席委員：小林委員）

事務局（会津美里町産業振興課）：国分課長、小林課長補佐、高橋係長、小林副主幹

1. 開会（高梨副委員長）

これより令和元年度第2回観光まちづくり推進協議会を開会する。

2. 石原委員長挨拶

いよいよ佳境に入ってきた。基盤ができつつあり、これからどうやってステップアップしていくかという段階に入っている。施策だけではなく成果が期待されるので、皆様からの力添えを今まで以上にお願いしたい。

3. 議事

<事務局>

（1）平成30年度事業効果検証について

（事務局より資料説明）

<石原委員長>

率直な感想は、なかなか難しいが、アクションプランが有効とは言えなかったとは言えない。だから有効だと微妙な感じだが、具体的にはっきりと数字で示せるものがあまりなかった気がするが、おおむねこのようなことであったかと思う。皆様から何かご意見あるか。

…（発言なし）…

<石原委員長>

確実にアクションプランについては、イベント等も行っているし、活動はできていると思う。ただ、測定がなかなか困難であった。意見にあるようにインデックスとか指標の問題とがあるが、こういうことは今後の課題となっていくが、おおむね有効であったと考える。

(2) 平成31(令和元)年度事業進捗状況について

A 観光地としての受け入れ基盤の整備

(事務局より資料説明)

<石原委員長>

空き店舗データベース整備と活用促進に向けた検討調査との関係はどういうことなのか。データベースは整備されているが、検討調査とは何を調査するのか。

<事務局(課長)>

データベースの整備は、登録物件数が46件あるが、これは主に民家で、空き家で居住を目的とした物件を表している。調査については、空き店舗を所有している方に調査しているが、実際には空き店舗はあるが、住居兼店舗が多いということが1点、それ以外についても売りたいとか貸したいとか今後どうしたらよいか判断がつかないというのが現状で、なかなか回答がもらえなかった。なので、意向調査を工夫した形で検討したいと担当課から聞いている。

<石原委員長>

利用希望が77件とあるのは主に住居なのか。

<事務局(課長)>

主に住居となっている。

<石原委員長>

実際にはどのくらい結果が出ているのか。

<事務局(課長)>

9月末で46件あるので、このデータベースを運用開始したのが2年前で、詳しい数値が分からないが、空き家バンクに登録してある物件を購入して、県内、県外からお住まいになった方は10数件ある。県内でも多い方だと聞いている。地域おこし協力隊や町の職員などもいて、そうした人達が活用している。

<石原委員長>

民泊の届出は、町内は0であるが、このあたりは、民泊に対する理解は進んでいるのか。

<事務局>

届け出の状況は福島県のサイトで確認はできるが、町として働きかけは行っておらず、県の動向を見ている状況となっている。町として民泊を推進していくところまでは考えていない。このサイトの登録状況を見ながら今後対応していったらいいのかなと考えていた。

<石原委員長>

美里町の全体的な宿泊施設は数が限られているので、民泊というのは今後ひとつのキーになるのかなと。長谷川委員のところではライバルとなるが、ご意見あるか。

<長谷川委員>

以前、宿泊事業者連絡会の中で民泊についてどういうふうな対処をしていったらいいのか話をした。結果としてはウェルカムだ。とにかくキャパを広げてたくさんの人たちに注目してもらう町にならないと、今ある施設もどんどんマイナスになっていくような話なので、確かに脅威の部分はあるが、そんなことを言っていたら自分たちも共倒れしてしまうので、広く開けていく姿勢を見せている。

<事務局（課長）>

確かに民泊は少ないが、本町には農家民宿が一部あるが、それも少ない。喜多方は以前からそういう所が多い。このあたりをグリーンツーリズムと合わせて増やしていかなければならないと考えている。

<石原委員長>

着地型の体験型であれば、民泊というのが大きなインパクトになるが、行政の責任が重くなるような気がする。私はホテルを作っていたが、ホテルを作るには40くらいの法律をクリアしなければならない。そのほとんどが安全面の法律で、構造的なものや衛生管理などだ。ホテルや旅館はそれをクリアして営業している。民泊はこれがまったくない。何か事があったときにかなり行政の負担が出てくると思う。民泊をするには色々と指導がないとなかなか実現はしないのかなと。その他、何かないか。

…（発言なし）…

B 着地型観光の確立

（事務局より資料説明）

<石原委員長>

この件について皆さんから質問あるか。

<長谷川委員>

前回の会合で町長から話のあったふるさと納税の件だが、ふるさと便の販売は、ふるさと納税との絡みはどうなっているか。

<事務局（課長）>

ふるさと便については、サイトから紹介しているWEBページのものと、ふるさと納税で返礼品として扱っている商品については、イコールではないが一部重複している。産業振興課としてはふるさと納税の返礼品をもう少しボリュームをアップしてほしいと担当課に申し入れしていきたい。町のPRとなるような商品を返礼品としたいと考えている。

<長谷川委員>

前回は観光振興目的のふるさと納税の把握とか件数は分からないという話だったが、実際に観光振興目的でふるさと納税をする方々は、この町に何を求めているか分析して

いるか。

<事務局（課長）>

ふるさと納税の目的は、「米」が一番多い返礼品となっている。町にこういうふうにしてほしいというのが本来の趣旨であるが、やはり米というものが、消費について魅力を感じているという部分が一つなのかなと。東京や沖縄などからもふるさと納税がある。町に対してどうこうというよりは、米の消費に対しての魅力というのが一番なのかなと。

去年はほっとぴあでの宿泊券というのがあって、イベントに参加して本町に宿泊するという商品を何名かが返礼品として選んだ方がいらしたので、ぜひ本町に来てみたいという人が何名かいらしたと思う。

<事務局>

ふるさと納税の所管課は、政策財政課でやっており、納税する際にどういった目的で納税しているか分析については今手元にないが、本日の会議録を後日送付する際に合わせて、どういった状況・目的で納税されているか確認し、別紙でご案内したい。

<石原委員長>

旅行エージェントへのセールスというのは、町の現状を知らないエージェントに対しては、点で説明するのではなくて、点と点を結びつけるようなパッケージサンプルを持っていかないと、こういうものがあるから見繕ってくださいと言っても難しいと思う。まさに観光協会とかと一緒にやっていく部分だと思う。今後継続するならばそういうことも考えていく必要がある。

<鈴木裕委員>

今のエージェント訪問では、実績があって拡充していると思う。分かる範囲でいいのでクラブツーリズムとかで宮川の千本桜のツアーなどやっているが、バスがどのくらい来ているか教えてほしい。

<事務局>

今クラブツーリズムの話が出たが、ここは友好的であるので、商品造成に繋げてもらえる。特に桜のシーズンになるとクラブツーリズムの大型バスをよく見かける。バスの台数については把握しているが、今手元に資料がないのでお答えできないが、状況については把握している。

また、先ほど石原委員長から話があったが、エージェント訪問する際にはパンフレットを持って行って美里町にはこういうところがありますよという出し方ではなく、ある程度見どころや食事処を組んでパッケージとして提案した形でプロモーションをかけている。そういうところでクラブツーリズムとか他のエージェントなどが興味を示してもらってきていると思う。

<星委員>

10月10日に新潟市内のエージェント訪問をしたようだが、私は観光協会であるが、今度、観光協会では新潟の弥彦町の観光協会と繋がりたいと考えている。それと日光、美里、

弥彦を合わせて繋げていきたい。新潟の人たちは信仰心が強く、伊佐須美神社にも結構来ている。本郷のインフォメーションのところにも新潟ナンバーがよく止まっている状況なので、首都圏だけでなく、新潟にもアクションをかけるということで、来月行く予定である。

<石原委員長>

それはいい考えだ。弥彦と相互訪問できるからいいと思う。

<星委員>

今の伊佐須美神社の宮司が若い時、弥彦神社に務めていた時期があった。弥彦神社前にも門前町があるが、そこに住む人たちはどのように弥彦神社を崇拝しているのか学んでこれたらなと思っている。

<石原委員長>

新潟市民は弥彦に対する思いがすごい。私は新潟に1年半赴任していたが、最初に言われたのが弥彦に行ってお参りをするように言われた。そういう意味で弥彦という存在が新潟市民には大きいと思う。町民から伊佐須美神社と言ってもらえるよう観光協会にはぜひ頑張ってもらいたい。

C 観光まちづくりの推進

D 地域連携による観光事業の拡大

(事務局より資料説明)

<石原委員長>48:57

観光百人衆の件で、毎回同じことになるが、ぜひ美里に住んでない、美里町を知っている人に百人衆になってもらって、美里の中で知っていても表に情報が出ていかない。柴崎さんや長谷川さんのところに訪れたお客様にぜひ百人衆になってもらって、良さをアピールしてもらおうなど、表に行ってPRする。私の友人で地方出身者で、何とか観光大使になった者が何人もいる。彼らは自慢げに名刺を出す。やはりそういうことをやるとうれいものである。だから名刺くらい作ってあげると喜んで配ってくれる。やはり美里町の知名度をあげるには、外の人に百人衆なってもらうことが大事である。例えば工業団地に東京から赴任してきて戻った人になってもらうとか、こういう人は少なくとも美里を知っている。そういう人にPRしてもらうことが本来の観光百人衆の使命だと思う。中の人を知ってどうするのか、外に出て発信しているなら分かるが、非常にもったいない。その人達がSNSで義務として発信していかない限り作っている意味ない。この良さをいかに表に発信するかが本来の趣旨であると思う。ぜひ今年度でも来年度でもいいので、周りの方を巻き込んで百人衆になっていただく。皆さん喜んでやってくれると思う。

それからインバウンドのランドオペレーターセールスは、なかなかキツイ。というのはランドオペレーターというのは価格競争が激しいので、低価格商品はいくらでも作る。

そのかわり色んな所によって、モノを買ってもらってマージンを取るようなビジネスはとても強い。だから美里へ来てどっかで買い物させるような場所があればいいが、そうではないと、ただ良いモノを見せるということであればランドオペレーターのうちまみがない。こういうランドオペレーターはたくさんあって、様々な商品があるので、そこで勝つには、よっぽどインパクトがないと難しい。もちろんやった方がいいが、そのための商品づくりをキチンと考えないと、興味があっても彼らにとっての利益が期待できないところには行かないということである。何か質問あるか。

<高梨副委員長>

今ほど観光百人衆の件で委員長から話があったが、私のところで地域商社という事業の中で応援サポーターというものをやっている。これが委員長から話のあった外から発信している形で、去年から取り組んでいる。だいたい首都圏の方が主であるが、その他京都や福岡の大牟田市などで展開している。委員長から話があったように、我々はその方々に美里を知っていただいて理解をしていただいた方には簡単な名刺をお渡しして、それで発信していただいている。

それから商品の造成もやっていて、10月1日に靖国神社で、知覧（鹿児島県）の玉子丼をモチーフにした玉子丼を靖国神社敷地内の飲食店舗で出している。その米が会津美里町の米を使っている。そこに行くと、厨房の手前に会津美里産コシヒカリと表示されている。結構な人数が往来するので、かなりPRになると思う。そのほかにおたねニンジン入りのピンピンころりカレーを商品開発し、10月から本格的にプロモーション展開している。10月中旬に東京下北沢でカレーフェスタがあったが、そこで12日間、仮店舗をオープンしPRしてきたが、いずれにしても、それをマスコミが食いつくにはバックグラウンドとして物語がないとなかなか食いついてくれない。なぜおたねニンジンがというところは、その歴史的な関係性が美里町のニンジンには十分にあるし、今は健康ブームであるので、薬膳的な効果もある。それからネーミングが三十三観音にちなんだネーミングを持っている。そうしたことからマスコミに取り上げてもらえて、いろんなところで発信してきており、外に向けた発信を行っている。

先ほどのWEBカタログは、販売サイトではないので、販売という言葉は適當ではないかなと思う。いずれにしてもポータルサイトひとつに固定するのではなく、いろんなサイトにおいでいただく。ただ、費用がかかるのでバナー等で対応するしかないと思う。直接的に申し込むような通販サイトではなくあくまでもカタログという形なので、販促に大きく繋げるというのは難しい感じはする。さきほどのコシヒカリ等々については我々としても取り組んでいるので、そうしたところで認知度を上げていくということができるのかなと。

もうひとつ、民泊に繋がるかどうかだが、宿泊形態のプラスということで、せせらぎ公園のキャンプ場を私の方で指定管理者として運営させてもらっているが、緩やかではあるが利用者が増えてきている。そこにモンゴルのゲルを11月中には6棟建てる予定で

ある。トイレはないがキャンプ場の一介にある程度のいいテントになる。これもストーリーがあって、若松市内に日本モンゴル協会があって、その方から紹介を受けたが、もともとモンゴルの子供たちが、東日本大震災の時に、なけなしのお金を使ってくださいと送られてきたそうで、こちらからすると少ないが、向こうからするとすごく貴重なお金で、そうしたことをしてもらったので、そのお礼ということで、町も関与したと思うが、ランドセルをモンゴルに送るということをした。それが今では河東のララちゃんランドセルの工場が担ってやっていると思う。そうした繋がりがあって、いきなりモンゴルを持ってきた訳ではない。そうした繋がりの部分をマスコミに話をして、それを発信してもらって、さきほどのインバウンドや、民泊の代わりに繋がられればということで取り組んでいる。

<石原委員長>

さっきの外部の PR される方は何人くらいいるか。

<高梨副委員長>

今150名ほどいる。美里会という在京の美里出身の方が中心とした会があるが、そのほかに大きな団体を持っているおせっかい協会とか、そうしたところにアポを取りながら出させてもらっている。

<石原委員長>

ぜひ、美里会とかに美里町の最新の情報を差し上げて、PR してもらうように。

<高梨副委員長>

メンバー登録しているので、定期的にひと月に1～2回情報提供を出している。

<石原委員長>

それはすばらしい。ゲルは本物のゲルか。

<高梨副委員長>

本物である。

<石原委員長>

全国紙に露出したい。

<高梨副委員長>

この近辺では那須に1棟か2棟ある程度だ。

<石原委員長>

今のストーリーを聞いていると全国紙やテレビでも取り上げてくれそうだ。

<高梨副委員長>

追加でお話すると、京都の方が本町に来て、色々と街並み等々を見てもらった時に、やっぱりこの町に不足しているのは、飲食が弱いと印象として言われた。ただ展開の仕方、考え方だと、ここを供給元として需要元は会津若松市内などに設けるとか。ただその時には、必ず会津美里という名前が加わる形にしていけないと、ただの生産町だけでは弱いので、この部分も検討が必要であると。特に京都は食の文化が強いので、そうしたところからまちづくりを担っている部分大きい。そこはもう少し考えていった方がいいとアド

バイスをいただいた。

<石原委員長>

食がないと、観光地にはならない。それから買って帰るモノが必要。お土産がないと観光地の様相にはならない。余談になるが観光客の消費単価が上がらないというのは、高いものを買わないのではなく買う場所がないということ。買いたくても買うものがないということである。やはり、職員が頑張って誘客数を増やしても限界がある訳で、来た人を買ってもらうのが大事。観光の目的は、それによって人が活性化するというのもあるが、やはりお金を落としてもらうことが目標であるので、その工夫が来年度以降、大事になってくると思う。

それでは3つ目の議題をお願いする。

(3) 意見集約の結果について

(事務局より資料説明)

<石原委員長>

なかなか良い意見があったが、今回は私だったらこうやってやるということも書いてもらうようにした方がいい。やっぱり一番大事なのは、どうやってやるかの部分で何をやるかは皆分かっていると思う。これは意見としてなので、そういうことも書いてもらって、そうした発言があればぜひお願いしたい。

修学旅行というのはとても面白いと思う。修学旅行というのはとてもおいしいビジネスで、一度来てもらって成功すると必ず毎年来てもらえる。それから一つの部屋に大勢入ることになるので安心でき、それこそ民泊とかそういう活用もできる。かつて沖縄の本島の北の方の島で、特区で修学旅行を受けたことがあるが、参加した中学生が喜んでいて、受ける方もとても喜んでくれた。若い人とふれあえたり、非日常を経験できたりとかで双方のメリットも大きいと思う。修学旅行というのは、旅行代理店などが入っているので、アプローチがなかなか大変だが、こういう体験型で、風景で、歴史的な資源があるというのはそうそうないと思う。先生方もこういうところに連れてくるのは安心だと思う。

<石田委員>

この辺の学校は新潟の方に行く。逆にいうと浜通りでは坂下の見明（会津自然の家）に来て研修を受けていく。宿泊の値段も妥当かもしれないが、そこで企画されたものをやれば先生方も安心だと思うが、それをこちらに引っ張ってこれないものかと。修学旅行でなくても体験学習（摘花作業やぶどうの作業）などをやって、地元のイベントにも参加してもらって、そうしたことを含めると、その若い人達が将来美里町をPRする戦力になってくると思う。それから彼らが結婚した時にまた美里町に来てくれるといった相乗効果もあると思う。只見町では町長宅に10人くらい宿泊して、若松で観光して、お土産は鶴ヶ城会館で買って帰っている。そうした町の人や町長の努力で、町に人を引っ張ってきてい

るので、美里町にもそうしたチャンスがあるのかなと感じる。

<事務局（課長）>

修学旅行という話であるが、本町も交流姉妹都市ということで、台東区や檜葉町、宮城県美里町、那須町があるが、色々な形で交流しているが、そこには小中学校など、宿泊はないが、野球や音楽を通しての交流がある。できれば修学旅行で来てほしいという思いはある。なのでアプローチはしやすいと思う。

<石原委員長>

運動施設など、様々な若い人向けのものがあるので、そういうものに活用できたらと思う。阿部委員何かあるか。

<阿部委員>

1 番目は私が書いたが、文章に一部誤りがある。「魅力的な祭りはない。」ではなく「魅力的な祭りなど、」が正しい。ここに書いてある通りであるが、新しく何かをやるというよりは、美里町の中には魅力的なものが色々あるので、お祭りひとつとっても、幼少の頃はすごく人が出てたり出店があったりしてワクワク感があつたが、今はもうそういうのが減って正直ワクワク感が感じられない祭りが多くなった。そういったところを何かひねらないといけないと感じる。そこから魅力向上させていくことで、お客さんを引っ張ってくるというよりは、お客さんが行ってみたいと思えるようにしていく方がいいのかなと思う。そうすれば、実現性の高い継続性のあるものになっていき、それが観光振興にもなっていくし町の活性化にも結びついていくということで、色々相乗効果が出てくるのかなと思って書かせてもらった。

<石原委員長>

お祭りというのはどうだろうか。

<鈴木きよ子委員>

こちらに來たのは嫁に來てからになるが、お祭りに関しては、女性の人達が伊佐須美神社に行つて、今年になつて衣装直しをしているが、あまりにも衣装がボロボロになつていて、見てないのかなと感じる。あまりにもひどいので女性達でアイロンがけをした。そういうの（御田植祭り）を継続していくにはちゃんと見ていく必要があると思う。

<星委員>

今鈴木さんが言つたように、イベント参加者の底辺を広げることが大事と感じる。今まで鈴木さんとそこに関わつたから中身が分かつたわけで、じゃあ御田植祭りにどんなふうに自分たちが直した部分が活かされているのかとか、そういう部分であつて、私も参加したが、衣装がきれいになつて大変助かつた。これをもっともっと広めてもらつて、せっかく御田植祭りが国の指定を受けたわけなので、継続性というか、広めていくことが大事なのかなと思う。

<石原委員長>

お祭りというのは地元のものなので、それを他の人達にもおすそ分けという形で見て

いただくということになる。情報発信するという立場で竹内さんはどうか。

<竹内委員>

関連してくると思うが、個人的には、町の観光パンフレットで本郷と高田のまち歩きマップがあるが、それを作り変えてほしい。もうやっていない店とかまだ掲載されていない店もあるので網羅されていない。何年前に作成したか分からないが、(合併した当時という声あり)、無くなった店も載っているし、役場の電話番号も前のままだし、それを案内所で、観光客に配っている。10何年も経っているので刷新してほしい。何年も前からそう思っていた。

<石田委員>

慶応大学大学院で若松市の観光について調査したグループの人達が言っていたが、もうパンフレットはいらないと言っている。若松市でも色々とパンフレットを作っているが、すべて満足できないパンフレットばかりで、予算の消化にすぎない。ディズニーランドにパンフレットはない。この辺からこれから考えていかないと、費用の無駄遣いになる。パンフレットはなかなか難しい。今の昭文社の地図を見ても、もう無くなってしまった松沢温泉とか上戸原温泉がまだ出ていたりする。

<石原委員長>

ただ、来た人はパンフレットを欲しがる。情報はパンフレットだけではないが、やはり来た人はパンフレットを欲しがる。

<竹内委員>

来た人は地図を見ることになる。

<石原委員長>

ただ、難しいのは、誰にどうやって渡すかである。以前に新潟県知事に言われたことで、新潟県の事業を手伝った時に、5か国語でパンフレットと作ったそうで、どこで手に入るか尋ねたところ、県庁に来れば手に入ると言われた。これではダメで、手に入るルートや誰に渡すかということをやはり考えなければならない。来た人はパンフレットを欲しがるので。

<石田委員>

文字が多いのはダメだと言っていた。まず読まない。

<竹内委員>1:21:30

もう一つ。以前の計画の中に看板を設置するとあったが、本郷だったら、窯元への道順であったり、三十三観音であったり、高田だったらお寺など、新鶴だとワイナリーもできたし、どこで曲がるか分かりづらいので、そういう看板をぜひ予算で設置してほしい。

<石田委員>

この前も公共交通会議の中で、あいあいタクシーの件について、観光客の方が、乗り方が分からないと話があった。あいあいタクシーとはどういうものなのか、案内があるのはこのじげんプラザだけである。伊佐須美神社にそうした案内があるのか、駅にあるのか、

例えば本郷のインフォメーションには職員がいるからいいが、意見として、新鶴から本郷に行ったら、帰りは時間となってしまうし乗れなくなってしまう。これは仕方ないことであるが、今、話があったように、看板も含めてどうやったら周知ができるか、パンフレットもそうだと思うが、そういう点も必要なのかなと思う。

<石原委員長>

最後になるが、体験型の部分で、グリーンツーリズムの観点で、柴崎さん何かあるか。

<柴崎委員>

私は、道の駅の件で意見が書かせてもらったが、体験型とは離れてしまうが、先ほど石原委員長が言われたように、お土産や飲食する場所がないが、実際、関東から友人が来た時に、若松市の鶴ヶ城会館で買い物をして帰ることになるが、体験する場所もそうだが、一ヶ所、鶴ヶ城会館のような場所を作って、本郷焼の体験とか、バラバラになりすぎているので、日帰りのお客さんにお金を落としてもらうことを考えると、既存の施設でもいいので、お土産を買う場所があつて、そこで体験ものができたり、シーズンの農産物を販売したり、そうしたまとまった所があつてもいいのかなと思う。散らばりすぎていると思う。

<石原委員長>

色々なものが分散しているから、それは大事なところでもある。

<柴崎委員>

日帰りの方が本郷、高田、新鶴をバスとかで回るのは厳しいので、まとめた方がいいのかなと感じた。

<石原委員長>

貴重なご意見に感謝する。やっと基盤が整って、これが動き始めたところなので、次の政策に活かしていただきたいと思います。議事はこれで終了とさせていただきます。

4. その他

<事務局>1：26：32

来年度は、観光振興計画の前期の最終年度になる。アクションプランでは短期・中期が前期の基本計画の期間であった。来年度は、前期基本計画の総括と合わせて、後期の基本計画の作りこみが始まるので、新たに策定委員会を立ち上げることになる。今回は効果検証ということで、PDCAに基づいて皆さんからご意見をいただいて、年2回実施してきたが、来年度は後期の基本計画を作る年であるので、策定委員会として委員の皆さんからまた改めてお願いするところもあるし、公募で委員を募集する予定でもあるので、引き続きよろしくお願いしたい。

また、観光振興計画そのものが、かなりボリュームがあるので、後期については、今日いただいたご意見や、今までの効果検証の内容もあるので、ある程度集約して、もう少し絞り込んだ形で、より実行性のある、できるものを事業として挙げていきたいと考えている。これまで、できたもの、できなかったものもあるので、もう少し整理してコンパクトな形で計

画を作成していきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。策定委員会は4回ほど予定している。ワークショップや勉強会、講演会などを予定しているので、そちらの方も参加もお願ひしたい。また策定委員についても、こちらからお願ひするかもしれないので、こちらも合わせてお願ひしたい。

最後に事務連絡として、本日の会議の謝金については、11月15日振り込み予定である。

5. 閉会（高梨副委員長）

以上をもって、第2回会津美里町観光まちづくり推進協議会を閉会とする。